

調査の目的と公開の狙い

情報を活用して良い病院、マシな病院を選ぼう

KP神奈川精神医療人権センター顧問 & Web編集長
佐藤 光展

がんや心臓病などの手術を受ける時、私たちは各病院の治療実績を調べて、入院先を選ぶことが多くなりました。現代の医療は標準化されてきたとはいえ、まだ病院間の実力に差があるためです(実績がある病院は医師、スタッフの技量が総じて高い)。今では、自治体や各病院のWebサイト、新聞や雑誌の特集など様々な方法で、各病院の治療に関する情報を入手できます。

こうした情報提供の先駆けとなったのが、読売新聞が2004年4月から定期的に続ける朝刊企画「病院の実力」です。私も当初からこの企画に関わり、様々な疾患についての独自アンケート調査を行って、各病院の治療実績を明らかにしました。そして国は、2007年に医療法を改正。「住民・患者による医療機関の適切な選択の支援」を目的に、医療情報ネットを中心とした医療機能情報提供制度を導入しました。

ところが、精神科の治療実績は今も闇に包まれています。根治を目指す手術も、科学的な検査法もない精神科では、治療の良し悪しを測る指標がほとんどないためです。医療を名乗る以上、うつ病などの代表的疾患の治癒率や寛解率くらいは出して欲しいものですが、うつ病が治ったことを示すバイオマーカーすらないので、客観的な成績を示せないのです。

さらに、精神科は総じて情報公開に消極的という問題もあります。私は以前、精神病床を持つ医療機関を対象とした「病院の実力」アンケート調査も3回行いましたが、回答率は惨憺たるものでした。特に、民間の精神科病院からはほとんど回答を得られませんでした。

ですが、「良い精神科はどこか知りたい」という思いは、全ての患者、家族に共通しています。そこで今回、回答率が突出して高い厚生労働省の630調査データ(2021年)を神奈川県内の病院ごとにまとめ、Webと冊子で公開することにしました。この調査の主な対象は病院なので、街にあふれる精神科クリニックの情報を入れられなかったのは残念ですが、病院選びの参考資料の第1号としては十分な内容にできたと考えています。収録した病院の写真は全て、KPメンバーが撮影したオリジナルです。

各病院が得意とする疾患や、入院患者の重症度などには違いがあるので、掲載した数字の多い、少ないだけで病院の良し悪しを判断することはできません。しかし、各病院の治療の傾向を知ることはできます。そこに入院してしまったがゆえに、酷いトラウマを負わされるような間違っただけの選択をしないためにも、この情報を活用してください。

